

京都ノートルダム女子大学中期目標・中期計画

(期間 2019年4月～2022年3月)

基本目標

京都ノートルダム女子大学は、キリスト教精神に基づき「徳と知」を兼ね備えた女性を育成することを建学の精神とし、ミッションコミットメントを行動指針とした全人的な人間形成を目指す教育を行ってきた。2021年度に創立60周年を迎えることから、今後3年間の中期目標を定めるものとし、不断の大学改革を実行しつつ、教育研究の特色や強みを打ち出すとともに、社会とのつながりを強化して、世界平和に貢献する女性の育成を目標に、教育、研究、社会貢献、管理運営に努めるべく以下の目標を掲げる。

1. カトリックの倫理観を基本に、人間と文化、自然と社会に関わる幅広い学問分野における専門性を探究しつつ、教育・研究活動を通じて社会との連携を深め、高度な教養と専門性を備えた先導的な人物を育成する。
2. ミッションコミットメントの四つの動詞のうち、特に「対話する」を基本とする、ことばの教育を全学を挙げて実行する。
3. 国際性を育む教育を提供する大学として、学生を広く海外へ派遣するとともに、教職員のグローバル化を計り、世界から多様な学生を受け入れ、豊かな人間性と幅広い知識を養い、名実ともにグローバルに活躍できる人物育成を実現する。
4. ガバナンスと経営基盤の強化を図り、各部署、各教職員が同じ目標に向かって持続可能な大学改革を推進することにより、小規模ながら社会の変化に迅速に対応する体制を構築する。
5. 学生にとって魅力ある教育研究を推進し、教育の特色と成果を可視化し、高校生や社会人、留学生から第一に選ばれる大学を目指す。これにより、収容定員充足率を安定化させ財務改善を実現する。

中期目標	中期計画
1. 教育の質の向上に関する目標	
(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標	
1) 全学教育の特色づくりとその打ち出し 2) 特色ある学部、学科専門教育の打ち出し 3) 社会とつながる実践的な教育の展開	1)-1 特色ある新共通教育課程の策定、および全学的な初年次教育の整備を行う 1)-2 カリキュラムを補強する正課授業外教育プログラムを開発、実践する 1)-3 大学広報により教育の特色を可視化する 2)-1 研究業績・実績を活かした教育の特色づくりを推進する 2)-2 入試広報場面で学科専門教育の特色を的確にアピールする 3)-1 地域や行政、企業の現場での新たなサービス・ラーニングを開発、実践する 3)-2 産業界で実務経験のある教員の積極的登用、配置を行う

(2)教育の質保証に関する目標	
1) 教学マネジメント会議の下での教学協議体制の確立 2) 学修成果の可視化と情報公開	1)-1 学部、学科および徳と知教育センターと連携した教学マネジメント会議の運営を定着させる 1)-2 3つのポリシーに基づき、学部・研究科の教育活動の検証を徹底する 1)-3 教学協議体制および協議内容を学内外へ積極的に発信する 1)-4 独自のIRの開発とその結果を教学に活かすサイクルを構築する 2)-1 アセスメントポリシーを策定、公表する 2)-2 学修成果の評価システムを確立し、学内外に明示する
2. 学生支援に関する目標	
1) 退学者を減らすための学習および生活支援体制の強化 2) 社会状況に応じた奨学金制度、授業料減免制度の整備 3) ダイバーシティ推進のための制度・環境整備 4) 充実したキャンパスライフによる学生満足度の向上	1)-1 担当学生数や面談の仕方を見直すなど、担任制度の実質化を図る 1)-2 経済的困窮学生に対する奨学金等、支援制度の運用を強化する 2)-1 現行制度の有効性、公平性の検証、更新および新制度の検討を行う 3)-1 受け入れ時の体制および学習支援や相談支援の体制を充実化する 3)-2 必要に応じた施設、設備等、キャンパスの環境整備をはかる 4)-1 クラブ、課外活動の支援を強化し、学生の交流を促進する 4)-2 学生寮の運用について検証、改善し、より快適な寮生活を提供する
3. 入学者選抜、学生募集に関する目標	
1) 高大接続改革を見据えた適切な入学者選抜システムの構築 2) 社会の要請に応える入試制度および学生募集体制の充実強化 3) 学生募集における安定性の確立	1)-1 高大連携校(同一法人校含む)との接続プログラムを強化することにより、「総合型選抜」を活性化させる 1)-2 学力を構成する3つの要素(①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」、③「主体性」)を踏まえた入試方法の多様化、評価尺度の多元化をはかる 1)-3 e-ポートフォリオの活用等、高校での活動の適正な評価方法を構築する 2)-1 社会人入試を推進する 2)-2 入学手続(入金システムを含む)のオンライン化を行う 3)-1 志願者状況を踏まえ、入学定員の改編への柔軟な対応を行う 3)-2 2021年度の入学定員充足率100%、収容定員充足率90%以上を達成する
4. 教育のグローバル化に関する目標	
1) 学内の国際化とその推進体制の整備 2) 海外の大学や機関・組織との連携による学生、教員の国際交流の強化 3) 外国語教育の充実化 4) 海外での実践教育の展開	1)-1 国際(化推進)委員会の設置 1)-2 外国人留学生の割合を在籍者の3%~4%に増加させ、維持する 2)-1 新たな協定大学の開拓、連携の強化に努める 2)-2 学部課程への新たな海外留学プログラムの提供と派遣留学生に対する語学強化システムの充実強化を行う 2)-3 外国語による教育情報の公表を積極的に行う 3)-1 英語正課授業の強化のための担当者の連携、履修指導、成果評価等の取組を強化する 3)-2 イマージョンスペースの利用促進および多言語化をはかる 4)-1 海外におけるインターンシップ、サービ斯拉ーニングを開発、実践する

5. キャリア教育・支援に関する目標	
1) 正課授業外プログラムも含めたキャリア教育の充実化 2) 卒業生との関係強化による学生の就活支援体制の整備 3) キャリアセンタースタッフの支援体制の強化	1)-1 企業との連携実践授業「キャリア形成ゼミ」の安定的開講をはかる 1)-2 キャリア女性としての態度養成等、就活に向けたブラッシュアップ講座を開発する 2)-1 ND版メンター制度を構築する 2)-2 正課授業および正課外教育プログラムでの卒業生の協力体制を整備する 3)-1 多様な研修機会や他大学との交流等による研鑽と外部キャリアアドバイザーによる専門研修などを実施する
6. 研究活動に関する目標	
1) 学外企業との共同研究、および学内の学際的研究の推進 2) 研究成果の社会への発信強化 3) 教員の研究支援環境整備	1)-1 企業や行政からの委託研究、共同研究を推進する 1)-2 学部横断研究や学科横断研究を推進する 2)-1 ホームページによる学内教員の研究成果の発信を充実化させる 2)-2 教員の一般社会への研究成果の発信、還元を評価するしくみを構築する 3)-1 若手教員の研究時間確保のために大学業務のスリム化や業務担当ルール作る 3)-2 教員の教育研究能力の向上を図るため、研究活動に専念できる研修制度を構築する
7. 社会との連携、地域貢献に関する目標	
1) 本学の知的資産を活かしたりカレント教育の提供による社会貢献の推進 2) 地域や産業界の課題に取り組むプロジェクトの推進	1)-1 卒業生や一般市民を対象にしたリカレント教育プログラムを企画、開発する 1)-2 リカレント教育に関わる相談や説明会を定例化する 2)-1 行政の取組に積極的に参画する 2)-2 NPOや民間企業との連携事業を推進する 2)-3 大学コンソーシアム京都をプラットフォームとした地域や企業との協同事業に参画する
8. 管理運営に関する目標	
(1) 大学の質保証に関する目標	
1) 自己点検・評価の充実強化と内部質保証システムの確立 2) 第3期目の認証評価に向け重点強化・対応	1)-1 自己点検評価サイクルの実質化を徹底する 2)-1 2022年度に認証評価を受審するための準備を2020年度から開始する 2)-2 外部評価委員会を開催して、学外者の検証を受ける
(2) 人事に関する目標	
1) 透明性・計画性のある人事管理 2) 実務家教員の採用・登用 3) 教員の評価制度の構築 4) 事務系職員のスタッフ・ディベロップメント(SD)の強化	1)-1 法令・規則およびルールを遵守した人事を行うとともに、教員にあっては、人事委員会での審査を通じ、透明性のある教職員人事を行う 1)-2 年齢・職位等においてバランスのとれた計画性のある人事を目指す 2)-1 教育研究業績のほか、豊富な実務経験のある教員の登用に努める 3)-1 教員の活性化に繋がる趣旨・目的の教員評価制度を導入する 4)-1 職員の能力開発の強化を図り、教育支援や管理運営を主体的に担う職員の育成を図るため、SD活動を強化・推進する 4)-2 適材・適所のほか、業務対応した重点配置を推進する

(3) 財務に関する目標	
1) 健全な財務体制への転換、財源の安定的確保 2) 経常費補助金の満額受給 3) 創立60周年募金活動の実施	1)-1 学生納付金、補助金、科研費等外部資金、寄付金等、自己収入を増加させる 1)-2 財務指標を可視化し、人件費、管理経費の抑制と効率的な執行を行う 1)-3 事業活動収支差額の2022年度以降黒字転換と人件費率の適正化をはかる 2)-1 2021年度に収容定員充足率を91%以上とし、補助金の減額原因をなくす 3)-1 2020～2021年度の2年間にわたり、創立60周年記念募金を募る
(4) 業務運営・改善に関する目標	
1) 中期計画と年次計画の実質化、活動指標の明確化 2) 創立60周年記念事業の実施 3) IR機能の整備 4) 事務の効率化と事務の重点化 5) 災害時に迅速に対応できる危機管理体制の構築	1)-1 年次計画の各取組には予め活動指標を設定し、その達成度を確認、改善につなげる仕組みを全学で実行する 2)-1 創立60周年記念事業委員会を設置し、組織的なプロジェクトとして2021年に記念事業を実施する。 3)-1 教学及び管理運営に関する客観的データを一元化して収集、分析し、企画立案や意思決定を支援するインスティテューショナル・リサーチ(IR)の整備を行う 4)-1 事務の効率化を推し進めるとともに、大学改革・IRの推進を担う組織を整備する 5)-1 地震や台風等の災害時に関係者が迅速に連携して緊急対応ができる体制の整備を強化する
(5) 施設設備の整備等に関する目標	
1) 財政状況を踏まえた中長期的な施設の維持管理計画	1)-1 財務状況を踏まえた上で、経年劣化、老朽化する施設設備の計画的な整備・改修・修理等を行い、持続可能なキャンパス整備に努める。 1)-2 ユニゾン会館の設備改修、テレジア館、別館、マリア館の建物診断、改修を計画的に進める